



I went to Azerbaijan for international exchange.

町では、国際交流を目的に東京五輪・パリンピック大会を契機にアゼルバイジャン共和国と交流を続けています。大会終了後もスポーツ、文化・芸能、学生を通じて交流し、今年度は内閣府の「大阪・関西万博国際交流プログラム（令和6年能登半島地震被災地域内閣官房事業）」として、志賀高校生2人がアゼルバイジャンを訪れました。



2025
(令和7年)
No.235



アゼルバイジャンの首都バクーにある複合施設で
イギリスの建築家・ザハ・ハディッドが設計した
「ハイダール・アリエフ・センター」にて撮影



在アゼルバイジャン日本国大使館公邸を訪問

万博国際交流プログラム(令和6年能登半島地震被災地域内閣官房事業)

志賀高校生2人がアゼルバイジャンを訪問

体験記&フォト・レポート

期間：1月13日(月)～20日(月)

We ♥ Azerbaijan



1-4_ 国立小中高一貫校で学生と交流し、2人は英語で志賀町や志賀高校を紹介した

私は2019年にアゼルバイジャンのレスリングチームが来町した時に交流はありましたが、実際にアゼルバイジャンを訪問するのは初めてでした。どんな国なのか興味と不安が入り混じる気持ちで飛行機に乗りました。実際に足を踏み入れると、人の温かさや美しい文化に心を奪われました。現地に到着した初日には、在アゼルバイジャン日本国大使館公邸を訪れました。豪邸が並ぶ住宅街に緊張しながらも、入ると大使館職員の皆さんが温かく迎えてくれました。伝統的な料理をいただきながら、アゼルバイジャンについて色々なお話を伺うことができ、これからの滞在がますます楽しみなものになりました。

2日目からはホストファミリーの皆さんにお世話になり、観光スポットや食事などアゼルバイジャンらしさを感じられる体験をしました。首都バクーの街は現代的なビルと歴史的な建物が混在し、歩きたびに日本の景観との違いに驚きました。カスピ海沿いにあるシー・フロント・パークでの散歩



谷内 絵美里 さん
(志賀高校1年)

は、静かな時間を過ごすことができ、心が癒されました。また、「フレイムタワーズ」の夜景は本当に美しく、感動しました。ホストファミリーと過ごした時間で特に印象に残っているのは、ダルハクン(14歳)とアダクン(12歳)と一緒におもちゃの銃で遊んだり、UNOをしたことです。お互いに言葉が完璧に通じなくても、ゲームを通じて自然と打ち解け、たくさん笑い合うことができました。本当に楽しく、心からリラックスできた時間でした。また、地元のマーケットを訪れ、新鮮な食材やお土産を選んだこともとても楽しく、アゼルバイジャンで暮らす人々の日常に溶け込んだようでした。

アゼルバイジャンは、安全でもてなしが素晴らしい国でした。訪問中に出会った人々との交流が、今でも心に残っています。もっと交流を深めるためにも英語の勉強をこれまで以上に取り組んでいこうと思うようになりました。

このプログラムに参加できたことは、私にとって、とても貴重な経験となり、アゼルバイジャンという国への関心がこれまで以上に高まりました。そしてもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。これから、志賀高校とアゼルバイジャンの学校との交流が始まるので、私も積極的に参加したいと思います。



谷内さんが着物を持参&着付けをして、日本文化をホストファミリーに紹介♥



燃える丘「ヤナル・ダグ」



世界遺産「乙女の塔」



高さ 182 m の「フレイムタワーズ」



カスピ海を臨む首都バクー



名産アゼルバイジャンティー



アゼルバイジャン料理「ケバブ」



イタリアの彫刻家ロレンツォ・クインの作品前



首都バクーの夜景

私は初めての海外でアゼルバイジャンに行きました。そこで一番驚いたのは、食の違いです。お米の中に杏が入っていたことは衝撃的でした。私の中の当たり前が一瞬で崩れていきました。

私たちが訪問したアゼルバイジャンの学校は、小学校から高校までが一つになっています。そのため、学校は迷子になりそうなくらい広かったです。学校ではたくさんの生徒に「写真を撮ってほしい」「サインを書いてほしい」と頼まれ、まるで自分が人気アイドルになったような気分でした。親日家が多いとは聞いていましたが、本当に日本が好きだということが伝わってきて、私もアゼルバイジャンのことが好きになっていきました。

ホームステイ先の家族とは本当に楽しい時間を過ごしました。街並みを見たり、伝統的なご飯を食べたりと、アゼルバイジャンを好きになるきっかけをたくさんくれました。ぶどうの葉で餅を包んだ料理や、とても大きな魚、ヨーグルトをかけて食べるスープは私の小さな世界を広げてくれました。



藤井 倫さん (志賀高校2年)

日本との違いに触れる機会が多かったですが、音楽やアニメなどの共通の話題で盛り上がる機会が多く、その度に世界が繋がっていることを実感できました。

アゼルバイジャンが「火の国」と呼ばれていることは知っていますか？2000年もの間、絶えることなく火が燃え続けている場所があります。天然ガスが地上に漏れて、燃え続けているからです。日本では見られない光景に唾然としました。日本では石油や天然ガスがあまりとれないというイメージがあったので、資源というものにあまり実感がありませんでしたが、燃え続ける天然ガスを間近で見ると、私の中に資源というイメージの解像度が飛躍的に上がりました。同時に自然の壮大さに圧倒されました。

日本にいただけでは感じられない文化や自然に触れられ、私自身の世界が本当に広がりました。世界には色々な国があり、その一つひとつを遠い存在に感じていましたが、同じ話題で話ができたり、一緒に遊んだりすることで、世界との距離がぐっと縮まったように感じました。そして、もっと色々な国へ行ってみたいという思いが強くなりました。またこのような機会があれば積極的に参加したいと思います。そのためにも、様々な国についてさらに勉強していきたいと思えます。